



よるんちよう 議会だより

第152号

2024年／令和6年7月25日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301
鹿児島県大島郡与論町茶花1418-1
TEL 0997(97)3201
FAX 0997(97)4196



奄中総体卓球競技で男女団体優勝、男子個人優勝、女子個人優勝・準優勝・第3位の与論中卓球部

補正予算は1億3316万円

(P2)

採択した陳情・意見書

(P3)

所管事務調査報告

(P4)

奄美群島市町村議会議員大会

(P5)

大牟田・荒尾与論会来島記念特集

(P6)

一般質問

7人が登壇!町政を問う

(P7 ~ P13)

6月
定例会

一般会計予算は 52億9459万円

主な補正

環境対策費	576万円
し尿処理費	204万円
観光施設整備事業費	△2,084万円
住宅整備事業費	△3,000万円
災害対策費	329万円

令和六年第二回定例会を六月十七日から六月二十一日までの五日間の日程で開いた。六月十七日は、諸般の報告の後、議案審議を行い、条例4件、補正予算3件を原案の通り可決した。その後、与論町過疎地域持続的発展計画の変更についてを可決し、専決処分2件を承認した。その後、議長による選挙管理委員及び同補充員の指名推選があり、当選人を決定した。最後に、一般質問が行われ、七人の議員が登壇し、町政全般について活発な議論を交わした。

六月二十一日は最終本会議を開き、補正予算1件を原案の通り可決した。その後、陳情1件を採択し、意見書1件を提出した。その後、総務厚生文教委員会、所管事務調査報告を行った。

一般会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
一般会計	53億1462万円	△2003万円	52億9459万円

特別会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
国民健康保険特別会計	8億2314万円	△3万円	8億2311万円
介護保険特別会計	6億8578万円	204万円	8億8782万円

採択した陳情・意見書

総務厚生文教委員会

◎義務教育費国庫負担率の引き上げをはかるための、2025年度政府予算に係る意見書採択の陳情

陳情者

大島郡与論町大字那間281-1 橘住宅18号

池之 教久

採択理由

学校現場では、貧困・いじめ・不登校など解決すべき課題が山積みしており、子どもたちのゆたかな学びを保証するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっている。

一方、独自財源により人的措置等を行っている自治体もあるが、自治体間の教育格差が生じることは大きな問題である。子どもたちが全国のどこに住んでいても、一定水準の教育を受けられることが憲法上の要請である。

このような観点から、教育の機会均等と水準の維持向上を図るため、義務教育費国庫負担率の引き上げを促す意見書提出は必要であるとの結論に達し、全会一致で採択すべきものと決定した。

義務教育費国庫負担率の引き上げを図るための、2025年度政府予算に係る意見書

改正義務標準法が成立し、小学校の学級編成標準が学年進行により段階的に35人に引き下げられます。今後、小学校だけに留まるのではなく、中学校・高等学校での35人学級の早期実施が必要で、さらに、萩生田前文科省大臣も、改正義務標準法にかかわる国会答弁の中で、30人学級や中・高における少人数



中学生の海洋教育の授業風景

学級の必要性についても言及しています。

学校現場では、貧困・

いじめ・不登校など解決すべき課題が山積みしており、子どもたちのゆたかな学びを保証するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっています。

一方、厳しい財政状況の中、独自財源により人的措置等を行っている自治体もあります。

差が生じることは大きな問題です。

な問題です。義務教育費国庫負担率については、国の施策として定数改善にむけた財源を保障し、子どもたちが全国のどこに住んでいても、一定水準の教育を受けられることが憲法上の要請です。ゆたかな子どもたちの学びを保証するための条件整備は不可欠です。

こうした観点から、2025年度政府予算編成において、下記事項が実施されるよう意見書を提出します。

記

1 教育の機会均等と水準の維持向上を図るため、地方財政を確保した上で義務教育費国庫負担率の負担割合を引き上げること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

令和6年6月21日

鹿児島県与論町議会

所管事務調査報告

総務厚生文教常任委員会

所管事務調査の目的

本町では、少子高齢化等で人手不足・人材不足による経済活動の衰退が懸念される中、全国でデジタル推進及びDXの取り組みがなされている昨今、昨年の鹿児島県肝付町での調査に続き、5月9日に開催された市町村議会議員研修会の機会を捉え、熊本県美里町のDX推進に対する予算措置等のより具体的な調査を行った。

美里町の概略

平成16年11月1日に旧砥用町と旧中央町が合併し誕生した。熊本県のほぼ中央に位置し、熊本都市圏から約40分圏にあり、山に囲



国の重要文化財「霊台橋」

まれた豊かな自然に恵まれ観光名所として3333段の「日本一の石段」や国の重要文化財「霊台橋」をはじめ多くの石橋等がある。近年では、緑川ダム湖周辺の森林をそのまま活かして造られたアウトドアパークであるフォレストアドベンチャーや良質の天然温泉が楽しめる道の駅美里「佐俣の湯」もあり、

多くの交流人口で賑わっている。

DX推進着手の背景

人口減少を見据えた安定的な行政運営を目指す必要がある、人口はピーク時の3分の2まで減少した。また、コロナウイルス感染症への対応や、国・県の最新動向を踏まえ、「美里町DX推進計画」を策定し、現在推進中である。

DX推進の状況

○事前質問への回答。
1. 美里町における令和6年度のDX事業に係る予算措置状況。
①移動型スマホ教室委託。1,423千円
②地域デジタル化推進事業委託。106千円

- ③ AI・OCR（日々の入力作業を短縮・転記できる）システム導入委託。148千円
- ④ 基準準拠版総合システム移行準備業務委託。58,245千円
- ⑤ ビジネスプラットフォームくまビジ委託。220千円
- ⑥ 防災情報配信システム導入業務委託。67,595千円

- ⑦ 町税・料金自動収納機。
- ⑧ コンビニ交付システム。
- ⑨ テレビ窓口システム
- ⑩ セミセルフレジキャッシュレス決済端末。
- ⑪ 書かない窓口。
- ⑫ 総合事務支援システム。
- ⑬ LOGOフォーム。

- 2. 導入済みで運用開始が始まっている取り組みについて。
- ① ペーパーレス会議システム。第一回定例会からペーパーレス会議を実施。
- ② コンビニ収納。
- ③ AIチャットボット。

- 3. 各課でDX推進の際、関係機関との調整で困難であった点、苦労した点はなにか。
- 複数の部署に係るシステムの導入の際の調整に苦労した。
- 総合事務支援システムは全職員に関係するので、研修の開催を20

回実施するなど、内部統制に苦労した。

4. 地域住民への説明会などDX化への広報活動について。
○各ツールの運用開始前には、広報誌、町HPにおいて周知を行った。また、住民向けに開催したスマホセミナー、スマホ教室は、各種媒体を活用し、広報を実施した。

以上の事前質問に対する回答を頂き、2時間にわたり有意義な研修を行った。我が町でも、少子高齢化に伴う人手不足の解消と地域住民へのサービスの低下を防ぎ、役場職員の業務過多による負担を解消するためDX



日本一の階段

推進を急ぐ必要性を再確認した。

第65回奄美群島市町村議会議員大会

奄美群島戦略ビジョン2033の実現を期する。



去る4月23日、大和村体育館において、第65回奄美群島市町村議会議員大会が県選出国會議員や群島選出国會議員、各市町村長等、来賓出席のもと盛大に開催された。

議事に先立ち10名の自治功労者表彰があり、本町からは5年以

上議会事務局職員として在職した池田レミ氏が表彰された。

議事に入り、経過報告の後、奄美群島12市町村において策定された奄美群島成長戦略ビジョン2033のもと、「つなぐ宝」「稼ぐ力」「支える基盤」という新たな3つの柱を

基軸とし各種施策に継続的・広域的に取り組むとともに、歴史的・文化的につなぐの深い沖縄との連携強化を図り、奄美群島の自立で持続可能な発展の実現を期するため、市町村議会として住民・行政と一体となって、全力を尽くすことを力強く宣言した。

その後、提出議題について、それぞれ代表者から提案理由の説明がなされた。

各地区関係では、①主要地方道名瀬瀬戸内線の大金久〜戸円間トンネルの早期実現について（大和村・宇検村・瀬戸内町）、②生鮮食品の備蓄倉庫・コンテナヤード等整備について（奄美市）、③和子牛生産者及び購買者に対する国・県の支援について（龍郷町・喜界町）、④高潮等災害に強い徳之島子宝空港ターミナルビル建替に

ついて（徳之島町・天城町・伊仙町）、⑤空港及び港湾並びに漁港施設の機能強化について（和泊町・知名町・与論町）の5項目であり、議長会からは、①離島地域における物価高及び燃油価格差の是正について、②奄美群島の条件不利性の更なる解消に資する新たな輸送コスト支援についての2項目であった。提出議題は全て採択された。

最後に、①奄美群島成長戦略ビジョン2033の実現、②ビジョン2033を着実に推進するための奄美群島振興交付金の充実、③地理的・歴史的・文化的につなぐの深い沖縄との交流・連携の強化、④世界自然遺産地域を含む奄美群島国立公園の保護管理及び持続可能な利用の推進、⑤情報通信ネットワークの整備・

充実、⑥交流人口、関係人口拡大に向けた施策の推進と更なる支援策の拡充、⑦道路・港湾・空港など交通基盤の整備・充実、⑧上下水道・公営住宅等住環境の整備・充実、⑨さとうきび・園芸作物など農業基盤の整備・充実、⑩重要病害虫、特殊病害虫、不快害虫等対策の充実・強化、⑪本場奄美大島紬産業の活性化、⑫災害対策推進と名瀬測候所の地方気象台格上げ、⑬保健医療・社会福祉の充実・強化、⑭地域を支える人材の確保・育成、教育の推進、⑮独立行政法人奄美群島振興開発基金の充実・強化の15項目を決議して大会を終えた。

議員研修会では、「台湾・日本有事に備え、戦争を抑止する」と題して元陸上幕僚長・岩田清文氏を講師に迎え講演が行われた。

大牟田・荒尾与論会来島記念特集



与論島到着・空港での記念撮影



与論会御一行の庁舎訪問



町長歓迎のあいさつ



来島記念品の贈呈



与論会の皆さんを囲んで懇親会（福祉センター）



みんなで炭坑節を踊る



朝岡光男会長



与論島への想いを綴った横断幕



海謝美の皆さんと浜掃除後の記念撮影

一般質問

7人の議員が登壇、町政を問う

町長 運搬の手伝いやコンテナの提供で対応する。 住宅改修時の引っ越し費用助成を図れ



大田英勝議員

町営住宅改修時の引っ越し費用の助成

大田議員 近年順次に町営住宅の改修が行われ、快適で住みよい住宅に生まれ変わっていることは、誠に喜ばしいことである。しかしながら、入居者は一時退去時と再入居時に、二度の引っ越しを余儀なくされており、入居者にとってそれが負担になっていくと聞く。そこで、引っ越しの際

町としてどのような便宜を図っているのか。また、今後引っ越しの際何らかの助成をする考えはないのか伺いたい。



改修後の瀬良座住宅

町長 転居先については、建設課所管の住宅を事前に案内している。また、引っ越し時には、建設課職員が運搬を手伝ったり、家具

保管用のコンテナを本町が借り上げて入居者に提供するなどして対応している。

一方、入居者自身が設置した設備（光回線や給湯器・ボイラー、テレビアンテナ等）の移転・撤去費用については、入居者自身で負担をお願いしている。

町民憲章前文の「美しい」の文言

大田議員 令和4年12月定例会において、町民憲章前文の「美しい」の文言は、町民憲章制定時の原点到ち戻り、入れないことに決まった。ところが、未だに「美しい」の文言が入った町民憲章が散

見される。町は決定後、このことを町民にどのように伝えたのか。ダブルスタンダードにならないよう、今後周知の徹底を図る必要があると思うが、具体的にどう取り組んで行くのか伺いたい。

町長 町民憲章の前文については、令和4年第4回定例会での一般質問を受け、「美しい」の文言を入れないう「恵まれた自然」に統一することに決まったと承知している。その後、砂美地来館にある町民憲章の修正や中央公民館への町民憲章の設置などを行ってきたが、一部の自治公民館に掲げられている町

民憲章の修正が未だなされていない状況にある。また、町民への周知については、先週の週報で「町民憲章前文の文言の統一について」という記事を掲載し、その旨の周知を図ったところである。



役場庁舎前の町民憲章碑

今後は、修正すべき自治公民館の町民憲章を修正していくとともに、全戸に町民憲章を配布し、町民憲章の再周知を図っていく。

非認知能力の育成を図れ

教育長 小中学校の授業改善で取り組んでいる。



南 有隆議員

令和時代の学校教育

南議員 デジタル化が進む学校教育においてテストで測定する認知能力だけでなくテストで測定できない非認知能力を育てる必要があると思う。また、デジタル化により余計に教職員の仕事が増えていくと感じるが考えを伺いたい。

教育長 中央教育審議会の報告では、非認知能力とは主に意欲・意思・情動・社会性に関わる3つの要素(①自分の目標を目指して粘り強く取り組む、②そのためにより方を調整して工夫する、③友達と同じ目標に向けて協

力し合う)からなっていると考えられている。

現在、小中学校が授業改善で取り組んでいる「学習者主体となる授業」では、児童生徒の興味関心を引き出す環境を作り、対話活動や操作活動などを取り入れた探究活動を授業

の中心に据え、1単位時間の最後には学び得たことを振り返るといった活動をし、先程の非認知能力の3つの要素を高めるよう努めている。デジタル機器を使うことは、教師の説明時間の短縮や視覚化することで児童生徒の理解を促進し情報を引き出すためのツールにもなっている。公務支援ソフトを使うことで書き添った指導要録をデジタル化できるなど教職員の仕事も効率よく進められる。教育委員会としては、デジタル化を進めることが

教職員の業務改善に繋がると考えている。

南議員 島の子供達が実社会の現実を乗り越えていくには、生きぬく力の育成が必要だと思いが考えを伺いたい。

教育長 社会や経済が大きく変化する中、子ども達には幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、新しい知識や価値を創造する「生きる力」が求められている。「生きる力」を育むため、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱の育成を重視している。

「何のために学ぶのか」という学習意義を子供と共有しながら授業の改善につとめている。与論町では「生きる力」の一つとして「島だちの力」を大切にしている。海洋教育科「ゆん

ぬ学」の探求的な学習が「島だちの力」を育むと考える。



海洋教育の授業風景

自分の興味関心を基にテーマを立て、探求活動を企画・調査し、試行錯誤を繰り返す中で子供達が「関心意欲」「粘り強さ」「コミュニケーション能力」「協働・共生する力」「学ぶ姿勢」「表現力」等を身に付けていくことを期待している。

観光による経済効果と観光客誘致

南議員 毎年数万人の

観光客が来島しているが、与論町の経済にどの程度効果を生み出しているのか。また、シーズンに向けてどの様に観光客誘致をするのか伺いたい。

町長 令和5年の観光による経済効果は、観光消費額が約25・5億円、そこから島外に流出せず、島内の各産業によって誘発された生産額である直接効果が約17・7億円、それに間接波及効果を加えた経済波及効果は約24・5億円と推計され、大きな経済効果をもたらしている。海以外にも楽しめるコンテンツの作成や販売、割引クーポンの発行などとともに、映像広告の配信やインフルエンサーと連携した誘客等に取り組む計画である。外国人旅行者の増加により、インバウンド対策も推進する。

大切な自然をどの様に保全するつもりか

町長 皆で共存繁栄の道を考え、解決策を導き出したい。



喜山康三議員

観光産業発展への取り組み

喜山議員 リーフと海、海浜とその背後地など稀有な景観と自然のお陰で本町観光産業は奇跡的な発展を遂げてきた。この遺産を守る事が定住人口減少の歯止め、本町発展の大切な要と思っている。大切な自然をどの様に保全するつもりか。

町長 海岸隣接地が島外資本に買収され、別荘やホテル建設計画等が進行している。島の観光資源である海岸周辺域の景観が損なわれる危険性が懸念される。皆で共存繁栄の道を考え、解決策を導き

出していきたい。

喜山議員 町民全員が観光客の来島を心から歓迎し、観光関連事業に何らかの形で携わり恩恵を受けた事が、観光産業が長期に渡り飛躍的に発展した要因と思っている。おもてなしの心を、島人が次世代へ受け継ぐために、何をすべきか。

町長 与論人ならではのホスピタリティが、観光を支えてきた大きな要素で「人」こそが与論島の大きな観光資源であると考えている。

喜山議員 文化、歴史の掘り起こしと保存をどの様に進めるつもりか。

町長 今後とも、歴史的に価値のある遺跡や文化財、伝統芸能等の発掘と保全に努めるとともに、令和5年度に

策定された「与論町文化観光資源ガイドライン」に沿って、遺跡・名所・行事などが観光資源として活用され、島外から来島された方々にも与論の伝統・文化に触れてもらえる機会が増えるよう、関係各所と連携を図っていく。

事業計画段階での住民とのコンセンサスと慎重な予備調査

喜山議員 給食センター建設がとん挫している。その理由と問題点は何か。

教育長 当初予定していた建設候補地がボーリング調査の結果、地盤改良や基礎工法を検討する必要がある費用も多額になることから、建設候補地を白紙に戻した。慎重な予備調査を実施し、事業計画を進めていく。

喜山議員 茶花漁港に計画されている防砂流入壁建設が建設された場合、台風時など高潮発生時には漁協施設及び付近商業住宅への越波が懸念される。見解を伺いたい。



防砂流入壁建設予定地

町長 今年度は茶花漁港の船揚げ場の段差解消・南中突堤の埋め戻し及び宇勝漁港の船揚げ場の段差解消等を行う予定としております。指摘の防砂対策壁

については、多方面からの検討を行いながら整備を進めていく。

自治公民館活動の在り方

喜山議員 自治公民館活動において高齢者向けサービス充実を図るよう連携事業等の検討はできないか。

町長 高齢者向けサービスは、高齢者に社会参加の場を提供し、閉じこもり予防、介護予防及び健康維持・向上を図る活動を推進することを目的とした『ふれあいサロン事業』を地域の公民館等を利用して行っている。

自治公民館活動での高齢者向けサービスの充実は、自治公民館長の意見等も踏まえ、各集落の自主性を尊重しながら、引き続き支援していきたい。

子育て支援整備をどう進める

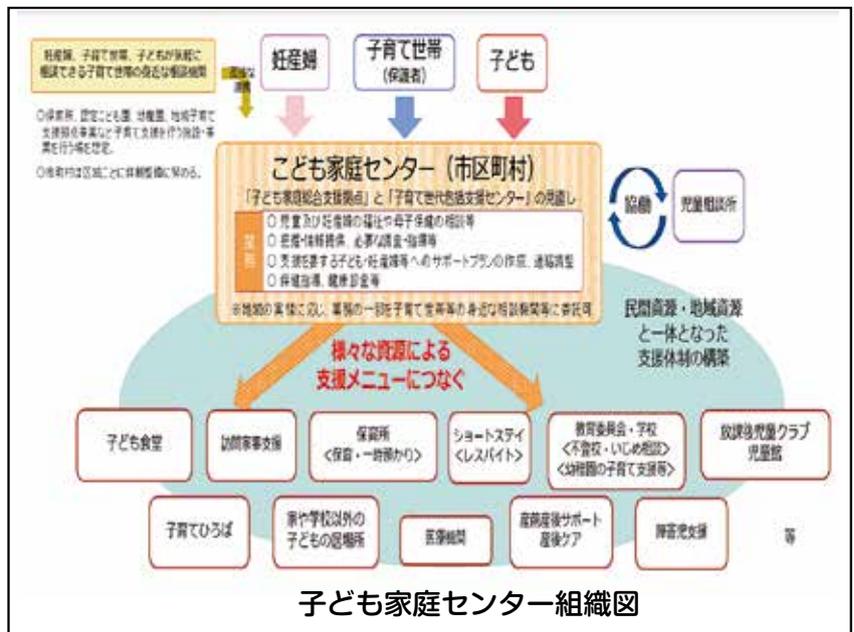
町長 組織再編も含めて総合的に検討していく。



林 敏治議員

子育て支援の整備

林議員 本町における少子化、子育て支援に関する施策の検討及び推進を担う「子ども未来推進室」や、子どもが安心して過ごせる居場所づくりとして「子ども第三の居場所」等の整備、妊産婦、子育て世帯が、気軽に相談できる「子ども家庭センター」の設置などについて今後どう推進していくか。



子ども第三の居場所」の整備は、子育て支援グループと協議し、総合グラウンド管理等を改修し整備する。「子ども家庭センター」は、子ども家庭庁からも設置を求められており、組織再編を含めて総合的に検討していく。

福祉環境の充実

林議員 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な事業の実施やすべての地域住民を対象とする包括的支援体制の整備を行っていく。重層的支援整備事業についてどう取り組むか。

町長 与論町高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画に基づいて、疾病予防や重症化予防、要介護者等が自分らしく自立した日常生活を送ることができるよう関係機関と連携を図りながら推進していく。

また、重層的支援体制整備事業は、現在、分野ごとに行われている介護、障害、子ども、子育て、生活困窮等の相談支援事業を一体的に行う事業であり、分野を超えた連携体制の検討や整備が必要となる。

本事業は任意事業であり、令和5年10月時点では、今年度に実施予定の自治体は、鹿児島県内で5つとなっている。今後、本町にあった体制を検討していく。

県宮畑地総合整備事業第3那間地区

林議員 令和6年度県宮畑地総合整備事業第3那間地区について今年度実施計画を行い、令和8年度から工事着手を計画しているが、地権者及び耕作者のニーズに比べられるよう整備をしていく必要があると考えるが、今後どのように推進していく考えか。

町長 国庫補助事業として、今年度採択されている。実施内容は、34haの農地に区画整理と畑地かんがい計画している。

今月開催する推進委員会を皮切りに、夏頃に今後のスケジュール等に関する地元説明会を行い、地権者の意見を踏まえた上で、工事施工同意をとりまとめ、区画整理の配分計画、換地計画原案作成、工事実施設計を行い、工事を進めていく予定となっている。

週報(くみちぎ)の在り方改革を

町長 インターネットでの情報提供の充実も図っていく。



吉田 剛議員

週報(くみちぎ)の在り方

吉田議員 広報よろんをはじめ、議会だよりや月2回の週報を、いつでもどこでもより身近にというところから令和3年度発行分より、アプリをダウンロードすることにによりスマートフォンやタブレットから閲覧可能となつてはいるが、未だに紙媒体での戸別配布も行っている。その事による近所トラブルや「時代にそぐわない方法である」、「経費削減が必要では」などの声が上がっているが、今後どのようにしていく考えか伺いたい。



町長 現在、週報等を紙媒体で全戸に戸別配布していることについては、近年、本町でもホームページ等での情報提供の充実にも努めているが、紙媒体での配布は、町民の全世代に平等かつ確実に情報提供するうえで、まだまだ必要であると考えている。経費についても、町民への平等な情報提供は非常に重要であるので、最低限必要な行政コストであると考えている。

今年度は、関係機関とも連携しながら小組合長の皆様の文書配布に係る仕分け作業の煩雑さの解消や配布先の

明確化などの検討も進め、小組合長の苦勞を少しでも軽減できるように努めていきたい。

また、いつでもどこでも・だれでも、知りたい情報にすぐにアクセスできるようにインターネットを通じた情報提供の充実も図っていく。

修学旅行におけるスマートフォンやカメラの所持禁止

吉田議員 修学旅行時は、生徒のスマートフォンやカメラの所持が禁止されているが、これは、旅行中に動画や写真をSNSに投稿することにより、投稿者本人が予見しなかつた誹謗中傷に会う危険や、その後のいじめにつながる様な事態を生みさせないための学校側の配慮とは思いますが、禁止にするのではなく、SNS等、現代

社会とどの様に暮らしていくかという点が教育として大事だと考える。トラブルを未然に防ぐことも大事ではあるが、その点においてどの様な考えか伺いたい。

教育長 3小学校及び中学校における修学旅行時のスマートフォン所持については、各校の判断により禁止としている。スマートフォンを持つことで、子どもがそれを使うことに振り回され、友達との思い出作りや貴重な体験の機会が減る恐れもある。修学旅行の趣旨が子ども同士の交流促進及び沖繩の地理や文化の学習であり、修学旅行も授業の一環であるのでスマートフォンを使用することは好ましくないと考えている。

また、カメラについては、本人の責任のも

と所持・使用を認めている。指摘のとおり、スマートフォンは子ども達にとって最も身近な通信機器となっている。SNS等の利用に関する教育は、発達段階に応じた指導を行うことになっており、各学校において情報モラルカリキュラムを作成し継続的な指導を行っている。



使用が可能なカメラ



使用禁止のスマホ

移住者への住環境整備を急げ

町長 住宅整備や空き家改修転貸で住環境の改善を図る。



林 隆壽議員

移住者への住環境整備

林議員 与論町に住所を有する移住者がシェアハウス等、簡易宿泊施設での生活を余儀なくされている現状にあるが、このような方々が、公営住宅等への入居が大変困難な状況である現状をどのように認識し、どのように対策を講じているか伺いたい。

町長 公営住宅設置の大きな目的は、住宅に困窮する低所得者を低廉な家賃で入居させることにある。条例等に定められた入居要件を満たせば、本町に住所を有する移住者でも入



与論高校前に建設された新しい町営住宅

居を申し込むことが可能となる。

建設課では、公営住宅の整備・管理運営のほか、民間の住宅資源を活用するため、空き家を改修し転貸するサブリース事業や空き家所有者に対し賃貸住宅として貸し出すことなどを条件に改修費の補助事業も実施しているところである。

これらの住宅には、本町に既に住所を有する移住者や本町に転居

予定の移住予定者についても、条件を満たせば入居することが可能となっており、引き続きこれらの事業を並行して進めることにより、町民の住環境の改善を図っていく。

観光関連施設の整備

林議員 今、与論島には、若者だけでなく、老若男女様々な方々が来島している。観光各所に整備されているトイレはほとんどが和式であり、高齢者及び、身体的に不自由な方々が利用しやすい洋式に変えて、持続可能な観光の島を構築すべきである。また、各所に使用不能な施設が存在するが、このことをどのように認識し、どのように対策を講じていくのか伺いたい。

町長 持続可能な観光の推進は「多様な受入環境」の整備が重要で



高齢者等に使用困難な和式トイレ

あり、本町においては特にトイレの洋式化やバリアフリー化が重要な課題のひとつであると認識している。

これまで、各観光事業者等に対しては補助事業を活用し洋式化やバリアフリー化を支援してきたが、観光地やマラソンコース沿いに設置された公設トイレについては洋式化率が約50%程度となっており、和式しかないトイレも2ヶ所ある。早急な対策として簡易式の洋式トイレの試験導入

を進めるとともに、来年度以降は奄振事業や観光庁事業等の補助事業も活用しつつ、優先度の高い施設から洋式化とバリアフリー化について順次整備を進めていく。また、使用不能となった施設については、随時解体を進めていく。



使用不能状態のトイレ

供利港沖のアオサンゴ群生の保護を

町長 島の共有財産であるサンゴを守っていく。



福地元一郎議員

共同墓地（納骨堂） 建設の進捗状況

福地議員 昨年9月定例会で共同墓地（納骨堂）建設を継続して進めていく考えかとの質問に、町長は早期整備に向けて取り組んでいくと答弁され、当時の担当課長も供用開始を令和8年度が目標だと答弁した。そこで、現在の進捗状況はどうなっているか。

町長 共同墓地整備は着手して建設予定地を伐開したところ、江戸時代のものと思われる墳墓が発見された。その調査期間を設けるため計画を変更した。具体的スケジュールとして

では、令和7年度に設計業務を実施し、令和8年度に敷地造成工事、令和9年度に施設建設工事を完了し、令和10年度からの供用開始を予定している。

タブレット端末の導入

福地議員 DX推進の一環として、議会にタブレット端末を導入して紙資源の無駄を省くと同時に、今後急速に進んでいく生成AIの活用も見据えた取り組みを行う必要があると痛感するが町長はどう進める方針であるか。

町長 議会へのタブレット端末の導入は、今年度中の導入を予定しており、令和7年第1回定例議会は、タブレットも使用できるように進めていく。生成AI（生成的人工知能）の活用も見据えた取り組みについては、全職員を対象にD

X入門セミナーや業務改善・効率化セミナーを開催するなど、デジタル技術を使いこなせる人材の育成に取り組んでいる。

アオサンゴの群生

福地議員 去る5月24日の南海日日新聞に、与論島供利港沖で世界的に希少なアオサンゴの群生が発見されたことがあった。アオサンゴは太平洋、インド洋に広く分布し、日本の生息北限は屋久島で奄美群島の他地域でも生息が確認されていて、群体は褐色だが、骨格が青いのが特徴で国際自然保護連盟（IUCN）のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているとのことである。

そこで、本町として詳細に調査をして、学術的に保護するとともに、観光資源として活かせるのか早急に検討

する必要があると痛感するが、町長はどう進めるのか。

町長 絶滅危惧種になっっている貴重なアオサンゴが供利港で生息しているとの報道を受け、嬉しきとともに、この与論の豊かな美しい海をいつまでも残していきたい。

今年度は、奄美群島成長戦略推進交付金事業を活用したサンゴ礁資源活用事業が採択され、与論島周囲の造礁サンゴ礁海域調査を行う。また、与論島周囲



発見されたアオサンゴの群生

写真提供(海の再生ネットワークよろん)

の珊瑚礁全域で、サンゴ礁の分布が分かる分布図情報の整備も予定している。

福地議員 供利港では、新しい桟橋建設の話があるが、一度破壊された自然は二度と元にはもどらないので自然を破壊する行為は、慎重のうえにも慎重を重ねて行動してほしいが。

町長 県の共通する財産は海やサンゴだと思っており、サンゴ礁に囲まれた島が与論の宝であり財産である。

不利な条件下にある供利港・茶花港は与論の港として整備をしていくが、任期の4年間は新岸壁、新港については一切触れないで、島の共有財産であるサンゴを守っていく。

わたしもひとこと



佐東 忠仁氏

プロフィール
 ・氏名 佐東 忠仁
 ・住所 喜界町赤連
 ・役職 元那間小学校長

「感謝」を生きる力に

定年退職して三年が過ぎました。

初任当時、県立喜界高等学校第七代校長も務められた与論町ご出身の益田 元甫教育長から、「土地に惚れ、人に惚れ、仕事に惚れよ。」と教育に携わる者の心構えを指導していただきました。この

教えを糧としてきましたが、喜界の地でも実践に努めたいと願っています。

与論町では、これまで家庭と（幼・小・中・高）の学校、諸関係機関が連携を深めて、町民一体となった特色ある教育活動が展開され続け、子供たち一人一人の健やかな成長を願って日々実践されてきています。

那間小学校在職時、その良き伝統と校風の中で地域ぐるみで学校の教育活動を実践することができました。心から感謝申し上げます。

また、長年にわたる与論翔励会の取組も知り、与論町三小の子供たちと共に参加した与

論三小学校と東十条小学校、与論町と東十条との交流では、与論島を愛する皆様の深い絆、「人をもつて財となす」の信念と情熱に身の引き締まる思いがしました。



那間小登校の様子

与論町教育行政の目標・方針のもと、子供が主役の教育活動に努め、学校行事など教職員と保護者と地域の皆様と同じ思いで一丸となつて進めることができました。

「あいさつ日本一」を掲げたあいさつ運動では、心のこもったあいさつが交わされ、しつかりとした門礼は自信と感謝の心で満ちていました。

与論の子供たちの活躍や与論に関わる記事を新聞で見つけるのが楽しみです。最近では、サンゴ礁保全のための奄美群島初のサミットが与論町で開催され、地元の小生もリーフチェックの手法を学んだことが紹介されました。

海岸愛護で知事表彰を受けられた海謝美のブログも時折見て力をもたらしています。「那間小ことわざカレンダー」も妻と一緒に愛用しています。与論島で育つ子供たちがこれからも「誠」の心で誠実に人に接

し、何事にも一生懸命に立ち向かい、可能性に挑戦し続ける「開拓精神」をもって成長してほしいと願っています。



那間小下校の様子

那間小学校の校是である「向学 誠実 開拓」と合い言葉「思いドウ 運命 請いドウ 幸運」は、私にとつても胸に刻みつけておきたい言葉です。与論町の益々の御発展を心からお祈り申し上げます。

《編集後記》

去る五月十八日、第31回やんばる駅伝大会が本町で開催された。与論町チームは、第4回伊平屋島大会から参加しているが、地元開催の今回、悲願の初優勝に輝いた。

また、先に行われた奄中総体卓球競技で、男女とも団体優勝、個人の部でも男子優勝、女子優勝・準優勝・第3位とほぼ完全優勝を勝ち取った。選手達の努力を讃え、今後益々の活躍に期待したい。

六月二十一日には、口之津移住百二十五周年を記念し、大牟田・荒尾与論会の郷土訪問団52名が来島され、島を挙げての熱烈歓迎を受けた。一行は早朝の海岸清掃・海謝美活動にも二日連続で参加し、久々のふるさとを満喫した。（大田）